SDGs新聞

三菱地所レジデンス株式会社

木を切って、地球を元気に！？

SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんは「木を切ること」にどんなイメージを持っていますか？地球環境によくない、というイメージを持っている人が多いかもしれません。
でもじつは、木を切らないと、地球にとってよくないこともあるんです。
木は光合成をして、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を吸収します。でも、年をとった木は、光合成の力が弱くなってしまいます。
だから、ちょうどいいタイミングで木を切って、新しい木を育てることが大切なんです。
そこでマンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」は、マンションを建てるときに木をたくさん使って、
新しい木をどんどん植えられるようにしています。
育った木を切って大切に使い、そしてまた新しい木を植えていく。このステキな繰り返しによって、地球が少しずつ元気になります。
みなさんも地球のために、自分にできることを考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

森林のイメージ

「木を切る」と聞くと、自然をこわすことのように思う人が多いかもしれません。しかし、木を「ちょうどいいタイミングで切ること」は、地球にとって、とても大切です。木も人と同じように年をとり、年をとった木は光合成をあまりしなくなり、空気をきれいにする働きが弱くなってしまいます。そうしたことから、古い木を切って、新しい木が育つように手助けをすることは、森の元気につながり、さらには地球や未来を守ることにもつながります。

画像参照：三菱地所レジデンスの環境負荷低減の取り組み
（三菱地所レジデンスHPより）

三菱地所レジデンスでは、マンションを建てるときに木材を適切に使い、新しい木が植えられるようにしています。成長して適齢期になった木を切って、木材としてむだなく使い、また新しい木を植える。この「地球にやさしいサイクル」を回すことで森や地球の未来を支えています。また、こういった取り組みのほかにも、住んでから使うエネルギーをへらす「ZEH-M Oriented（ゼッチ・マンション・オリエンテッド）」というマンションもつくっています。三菱地所レジデンスは、こうした環境にやさしい取り組みによって、2030年までに「二酸化炭素（CO2）の出る量を2019年よりも50%へらす」ことをめざしています。

キーワード

光合成

植物が太陽の光を使って、自分で栄養をつくることを「光合成」といいます。植物は二酸化炭素と水で栄養と酸素をつくり出します。これによって植物は成長し、私たちが呼吸するための酸素もつくられます。

木の適齢期

木（スギ）は、芽が出てから40年をこえると二酸化炭素を吸う力が弱くなるといわれています。木の種類によってちがいはありますが、20年から40年ほど育った木が「切るのにちょうどいい年齢（適齢）」とされています。

ZEH-M Oriented（ゼッチ・マンション・オリエンテッド）

エネルギーを少なく使い、環境にやさしい工夫がされたマンションのことです。くらしに必要な電気代もおさえられます。

対象ゴール

みなさんにできること！

森林がずっと元気であり続けるためには、どうすればいいか、みなさんで話し合ってみましょう。

おさらい

- 年をとった木は光合成をあまりしなくなる。
- ちょうどいいタイミングで木を切って、新しい木を植えることが森林や地球環境を守るためにはとても大切。
- 三菱地所レジデンスは木材をたくさん使い、また新しい木を植えることで「地球にやさしいサイクル」を回している。

メモ

SDGs ラジオ